

上市町学校教育審議会（第5回）

- 1 日 時 令和5年12月8日(金) 19時00分～20時48分
- 2 場 所 上市町役場 4階大ホール
- 3 審議委員 20名
- 4 出 席 小竹副町長、牧田教育長、平井事務局長、
平井教七次長
〔 スタッフ 教委：藤田局長代理、廣瀬主事 〕
- 5 概 要 次のとおり

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

・白萩西部小、陽南小の先行統合について

平井教育委員会事務局長より資料に基づき説明

11月10日に白萩西部小、翌11日に陽南小で行った説明会について、8月に実施した意向調査の結果と今後の複式学級の予測と講師確保の課題について説明をした。なお、陽南小については、現状、教務主任が学級担任となり複式を解消していることから保護者の方もあまり実感がないものと思われたため、複式学級の詳細についての説明を加えた。

このほか、審議会で協議している令和8年度での先行統合と、学校統廃合に係る在学児童生徒の状況について説明した。

白萩西部小では約45名に参加いただいたが、説明後、質問や意見はなかった。陽南小では約50名の方に参加いただき、多くの意見と質問をいただいたが、ほとんどは統合後についてのものであり、先行統合を否定するような意見などはなかった。2校の統合はどの質問があったが、地域間での綱引きは避けたいと答えたところ、それ以上の意見はなく、概ね上市中央小への統合で納得していただいたものと思われる。

次に、最新の児童数について、追加資料として12月6日現在のものを用意した。なお、今年度に生まれてくる子どもたちが令和12年度に小学校に入学となるので、出生数が確定していない現状では令和11年度までの予測となる。児童数については、0円空き家や子育て支援施策の効果が少しずつではあるが表れてきており、未就学児数が半年ほどで12名増え、社会増が見られる。結果、令和11年度の白萩西部小の複式学級が1学級減となっているが、町内全体で劇的に増えているという状況ではないことから、白萩西部小、陽南小ともに今後も複式学級が継続していくものと考

えている。

・意見

委員①

保護者は、先行合併については致し方ないという受け止め方をしている。地域の方の中には、地元で統合したいという意見もあった。

保護者は統合後にどんな形で送り迎えをして、どんな形で勉強するのかを気にしている。また、一番気にしているのは最終的に町内1校とする際の場所で、どこになるのかが見えていない。

教育委員会事務局長

先行統合や統廃合については、子供たちも不安はあると思うので、丁寧に進めていきたい。先行統合を進めるに際し保護者の意見を聞いていきたい。

委員②

白萩西部小について、スーパー農道より東側はバスになると思うが、町営バスなのかスクールバスなのか。

教育委員会事務局長

2km圏内は徒歩でお願いしたい。スクールバスについては、先行統合の際は、基本的にコミュニティバスの利用を考えているが、白萩西部地域についてはデマンド方式をとっているため、対応を検討する必要がある。

会長

両校の保護者も概ね上市中央小への統合について理解されていると思われる。審議会としては、複式学級解消のために、先に白萩西部小と陽南小、上市中央小の3校の統合を進めるということで意見がまとまってきたのではないかと。よろしければ、拍手で承認をいただきたい。

— 承認 —

・義務教育学校か小中一貫校かについて

会長

先日、瀬戸市のにじの丘学園に視察に行かれた松下委員と白井委員から報告をいただきたい。

松下委員

瀬戸市でも、9年間を見据えながら小中一貫教育を進めている。同じ課題をもつ町として、特色ある小中一貫教育を進めて行くことが大切である。

施設一体型の小中一貫校だったが、分離型と比べて、一貫教育の充実を図ることができ、令和2年度に800人の児童生徒数が、令和5年度には1100人へと著しく増加している。魅力ある小中一貫教育は、地域の活性化にも繋がるということを感じる。

中1ギャップを解消するため、にじの丘学園では、乗り入れ授業が児童の理解の定着を図るという点でとてもよいということであった。中学校の教員は専門性を活かし、小学校の教員が小学5年から中1の子供たちのサポートに入って、安心できる体制をとっている。学んでいきたい小学生が専門性のある教育を受けられるというのは魅力的だと思う。

義務教育学校と小中一貫教育校で何が違うか伺ったが、小中一貫教育校では中学校に加配教員が配置され、その教科によっては、進めたい内容が叶わないこともあり、この点では、乗り入れ授業をすれば義務教育学校の方が円滑にいくのではないかと思う。

なぜ、瀬戸市は義務教育学校にしないのかということ、新しくできるにじの丘学園だけ義務教育学校にすると、他の地区との差が課題になること、また、どのような成果と課題があるのかその時点では曖昧でできなかったということであった。

45分授業と50分授業の授業が成立していくのか伺ったが、区切りのいいところで時間を統一することによって、支障なく進んでいるとのこと。

小中一貫校の課題は、生徒指導について、小学校と中学校の教員が同じ職員室にいるにもかかわらず情報共有するのに保護者の了解を得ているとのこと。子供たちの情報共有や居場所づくりへの対応は義務教育学校であれば丁寧に対応できるのではと感じた。

義務教育学校では、最も育つ時期の小学校5、6年生を育てるための教育課程をあらかじめ検討しておくべきで、校長が一人というのも負担と思われ、また他の教員の多忙化も伴うことも明らかなため、対応や配慮が必要だと思う。

三条市と瀬戸市、2つの学校を視察して、義務教育学校であれば、生徒指導上は特に円滑になると思う。学力面でも特に小学校から中学校への橋渡しとなるような段階で今まで以上の成果が望めるのであれば、義務教育学校がいいと思う。

白井委員

三条市の義務教育学校と瀬戸市の小中一貫教育校で目指しているものは、殆ど一緒に9年間かけて子供の学びを教職員が行うということだと思

う。

にじの丘学園では、社会増、児童生徒増に結び付いていた。学校の図書館や地域住民に開放されているコミュニティスペースも大変広く、瀬戸焼で有名な所で地域に根付く伝統文化というものが学校にある。

瀬戸市自体は、私鉄終点の駅で、周辺はさびれており、上市に似ていると思ったが、立派な校舎や地域に開かれているものを造れば、子供を預けてもいい、住んでもいいということで人々が集まってくるということを感じた。通学をどうするかなど二次的な課題が出てくるが、路線バスの提携など工夫してやっているのだなと伝わった。

町がどれだけ立派なものを造るか、不足するところをどのようにしてフォローして子供たちのためにすればいいのかという課題が出てくると思うが、住民の知恵でカバーしていけばいいと思う。

結論、目指すものは一緒に、学校としての方針を一つにするには義務教育学校だと思う。

教育長

前回の会議で、管理職以外の先生の意見も聞いてみればどうかという意見もあったことから、町の先生を代表するような役割を果たしている2人に、義務教育学校と小中一貫教育校についてどう思うか聞いてみた。

1人は、過去に小中一貫教育校での勤務経験のある先生で、小学校と中学校の先生の違い、子供への声かけとか、接し方、授業の進め方が大きく異なり、ギャップがあり、子供たちにも戸惑いがあるのではないかと感じたとのことだった。また、先生の合同の研修があるが、率直な意見交換はあまり行われず遠慮が見られるとのことだった。

専科による授業については、小中一貫教育校でも充実していて、中学校の先生の空き時間に、小学校に出向いて専門性豊かな授業をしていたとのことだった。

また、義務教育学校であれば、子供がリーダーとして活躍できる機会を9年生まで待つのではなく、節目節目にそういう機会を設定する必要があるのではないかとのことだった。

2人目は、小、中学校の両方で勤務経験があり現在は小学校勤務の方で、子供や保護者にとっては義務教育学校であれば同じ学校の先生に9年間継続して見守られるというのは非常に心強いのではないかと、多くの先生方は義務教育学校や小中一貫教育校の勤務経験もないので、どうなるのか不安に感じており、方向性が決まれば早い段階で説明してほしいとのことだった。

先生の授業力や子どもたちの学力の向上については、教員間の仲間意識が育ち、互いに切磋琢磨して子供を指導できる義務教育学校が適している

のではないかとのことだった。

・質疑応答

委員③

小学校の先生が5年生から中1まで授業のサポートに入っていることに魅力を感じる。他の先生が入りやすい雰囲気为学校なら、親としても嬉しいと思う。

委員④

松下委員に聞きたい。子供の情報共有に関して、小中一貫教育校であれば保護者の了解をとらなくてはいけなく、義務教育学校であればとらなくてよいということなのか。

松下委員

瀬戸市の場合は1つの建物に2校あることで、組織的な制限がかかり、情報を慎重に扱っていた。当町で小学校から中学校に情報提供するのと同じようにしているという印象だった。

義務教育学校になると、1つの建物の中に学校は一つなので、全ての子供たちに対して全ての教員が気を配り、気にかかれれば遠慮なく担任の先生に声をかけることができる。

委員④

一つのところに9年間預けるといふ方が親としては安心感がある。連携の取りやすさから義務教育学校の方がスムーズになると思う。

委員⑤

にじの丘学園の立地状況について、駅からどれくらいあるのか。また、上市駅と現在の上市中央小の距離と比べるとどうなのか。

教育委員会事務局長

直線距離ではさほど変わらないと感じたが、駅から学校までの間に大きく起伏があり、30mくらい登るのではないかと思う。ほぼ半数がバス通学とのことである。

委員⑤

この後に協議する答申事案に新校舎の建設については、町づくりの観点から町中心部が望ましいとあるが、学校が新しい核になるというのであれば、郊外という考えもあるかと思い質問をした。

教育委員会事務局長

瀬戸市の場合、中心部に位置しているというのも1つだが、人口増の理由として、名古屋市に向かう名鉄の最終駅であり、名古屋圏であること、また、通勤圏にある豊田市からの流入もあると思われる。

委員⑥

昨今、中学校の部活動も民間に委託という流れになっている。義務教育学校になった時に、学業とのバランスも考え中学生が行う体育、文化を含めた部活動を先生方の体制も含め、しっかりと行っていただきたい。

委員⑦

20代の方と話をする機会があった。義務教育学校にすればすごく勉強のできる学校にできる。1年生から8年生までで義務教育を終わらせて、9年目は受験勉強という意見もあれば、逆に9年間もいたらのんびりしてしまうのではという意見もあった。また、中高一貫校を経験した人の意見として、長い期間一緒にいると、勉強でも部活動でも二極化してしまい、友達の塊ができやすくなるという意見もあった。その点については上市は小学校も1つ、中学校も1つであれば義務教育学校も小中一貫教育校も一緒という意見があり、その通りだと思った。

会長

義務教育学校になれば、カリキュラムの柔軟性が出てくるので、スーパー勉強できる学校というのも不可能ではないと思うが、しんどくなる子供たちにいかに手を差し伸べるかということが大切かと思う。

デメリットもあると思うが、先生方の経験、小・中学校の連携、子供たちにとってよりよい教育という視点から見ると、義務教育学校の方がよいのではないかというご意見が多かったように思う。

審議会としては、義務教育学校の設置ということで、答申を行いたいと思う。よろしければ、拍手で承認をいただきたい。

— 承認 —

・答申内容の検討について

平井教育委員会事務局長より資料に基づき説明

項目については、町長からの諮問と合わせてある。一つ目の「小学校の適正規模に関する基本的な考え方」については、第2回審議会において承認を得た内容となっている。

次に、「小学校の規模適正化に向けた学校統廃合の具体的な枠組み」について、2つに分けているが、先ほど承認をいただいた事項になる。

承認内容を踏まえると1つ目は、白萩西部小、陽南小の先行統合について、複式学級を解消するために早期（令和8年）に上市中央小へ統合することが望ましいとなり、2つ目が、中学校も含め義務教育学校を創設し、新校舎建設をできるだけ早期に進めることが望ましいとなる。

次に、「学校統廃合に係る教育環境の整備や通学手段等に関する事項」について、5点を記載しているが、この項目については要望的な内容となっている。

1点目、新校舎について町中心部での建設が望ましいこと、2点目、町立図書館などを併設、幅広く町民の利用が可能な施設とし、「上市に住みたくなる魅力ある学校づくり、まちづくり」をしてほしいこと、3点目、コミュニティバス、スクールバスを活用し、安全・安心な通学ができるようにということ、4点目、義務教育学校の制度を活かし、上市らしい魅力ある教育に取り組んでもらいたいこと、5点目、学校統合後も地域で子どもたちの顔が見られるよう、公民館等での居場所づくりを進めてもらいたいこととしている。

会長

事務局からの説明について、特に、学校統廃合に係る教育環境の整備や通学手段等に関する事項について意見をお願いしたいが、その前に、橋本委員から参考資料について説明いただきたい。

橋本委員

自分が所属する町内の中小企業経営者らが集うハッピー上市会で「この学校に通わせたいと思って移住者が増える学校とは？」というテーマでディスカッションをした。

上市の強みというところでは「自然が豊か」「地域のつながり」が挙げられ、特色ある学校づくりとしては、学力至上主義ではなく、人間力を磨くための、目を引くカリキュラムを考えればとの意見があった。

若い世帯の移住者が上市町に家を建てたいと思ってもらえるような、子育てにメリットがある、地域ぐるみで子育てをサポートする仕組み、例えば、長時間の預かりが可能だったり、学生アルバイトが宿題を見てくれたり、というような環境があればいい。上市では部活動の地域移行を大々的に地域がバックアップしており、このような地域の協力を上手に統廃合の際に活かしていけたらいいとの意見もあった。

また、特色ある授業ということで、デジタル化され沢山のことを学ぶ機会にもなることから、アニメが学べる学校、人間力を育む、習熟度別の授

業、オーガニックなど地産の特色ある給食というような話もあった。

この他にも都会ではできない経験、自然を活かした体験を大事にするような学校づくりや、空き校舎やコミュニティスペースをサテライトスクールとして活用し、学校では学べないような習い事ができればいい、世界に向けて広い知識と視野をもった子供たちを育ててほしいという意見もあった。

・質疑応答

委員③

上市に住めば待機がなく保育園に入れて、仕事が続けられるという環境があったら、若い方が移住してくれるのかなと思うが、上市保育園がなくなってしまうと聞き、不安に感じている。保育園に入れるのと、学童に通わせられるのが強みになると思う。

また、上市中学校は部活動が盛んで、平日は部活動のため宿題があまり出ず、金曜日にたくさん出て、土日が大変だと聞いたがどうなのか。

白井委員

現在、地域クラブと学校部活動ということで、半分ぐらいに分かれている。平日の部活動は週3日、土日は大会が近くなったら1週間前から練習試合等を入れて行っている。また、中間考査や期末考査の1週間前になったら、学校部活動は一旦停止、地域クラブの方も同様の対応をお願いしている。

宿題については、平日は自主学習に委ね、週末課題ということで金曜日に土日に学習する分を出している。週のワークのやり残しを中心に週末課題としているというのが現状である。

副町長

上市保育園がなくなるという話が出た時に、必要数が足りないという話にはならないということは聞いたと思うが、改めて確認しておく。

教育委員会事務局長

部活動の地域移行というのは、決して先生方の働き方改革だけでやったものではない。子供たちの数が少なくなって、将来的に部活動を維持できないことも考えられたこと、また、上市においてはこれまでも地域の皆さんが日頃から指導に携わっていただいていたこともあって移行ができた。

中学校の部活動を週3日としているのは、多感な時期に、部活動以外にも小学校からの習い事なども含めチャレンジできる環境をつくりたいということから部活動の地域移行とあわせて進めている。

委員②

答申の一項目にある小学校の 15 人から 25 人程度が望ましいというのは、義務教育学校になってからの話なのか、令和 8 年度の上市中央小に陽南小と白萩小が統合された時も、それが適用されるのか。令和 8 年度の小 6 で中央小と白萩小と陽南小を足したら、59 人になる。2 クラスだったら 29 人になるし、3 クラスだったら 19 人になる。小 2 を見ると 67 人と多い。いつから、人数が適応されるのか。

教育委員会事務局長

この人数については、それぐらいの人数が望ましいということであり、実際には 1 クラス 35 人という基準がある。

委員⑦

こう書いてしまうと、15～25 人にしてくれると希望が膨らんでしまうのではないか。

あくまでも複式をしないためという表現をした方がいい。

教育委員会事務局長

表現として、15 人以上で複式を組まないような人数が望ましいというような書き方に替えさせていただきたい。確かに 25 人とすると誤解されやすい部分があるため書き方を検討する。

委員⑤

新校舎の場所を町中心部と選択肢をわざわざ狭めなくてもいいのではないか。こう書いてあると場所の素案があるのではないかと捉えることもできる。

教育委員会事務局長

新校舎の場所については、各地域からの通学を考えると役場がある中心部の方がいいのではないかと考えている。また上市中央小に関しては、周りの道路や用地の真ん中に用水が走っていることなどから新校舎建設には不都合な面が多いのではないかとすることを前回の審議会でお答えしている。

このため、「町中心部」と書かせていただいた。

会長

学校がまちづくりの新しい中心になるのであれば、それなりにスペース

があった方がいいと思うので、機会を狭めるような記述をしない方がいいのではないか。

教育委員会事務局長

中心部という記述を消し、場所については町の方で判断してくださいという内容であればよいか。

委員⑧

いろんなことが学校を核として身近に利用できるような施設になるようなまちづくりは魅力的だと思う。

中心部という表現もあれば、子育て支援の施設も含めたことを考慮して、場所を選ぶのも一つと思う。

委員⑤

新校舎を建てるにあたっては、新しい町の中心になりうる地域を選定してとした方がいいのでは。新しい中心地ができて町が広がっていくという表現の仕方だと、候補も選択肢も広がるのでは。

教育委員会事務局長

例えば、町中心部ではなくて、新しい町づくりの中心となる場所という感じか。

委員⑤

新しい町が生まれていく、新しい未来が開くんだという方が答申としてもいいのでは。

委員⑨

新しい学校の場所というのはまだ公表できないかとは思いますが、周りからよく聞かれる。いつ頃に決まるかという目安はあるのか。この会議で言及するということか。

副町長

答申はしっかり受け止めて、具体的に考えていかななくてはならないと町長と話をした。ただ、この場は方針を決めていただくもので、建設場所はこの場では決められない。方針を踏まえ、なるべく早く決めていかなければならないと考えている。

委員⑦

先ほどの発言の訂正をお願いしたい。人数の希望はあくまでも 15～25 人で、15 人に関しては複式を解消するためということを入れていただければ。

部活動だが、年間通してではなく、シーズンスポーツという形で、様々なことにチャレンジできる環境を整えるというものでもいいのではないかと思う。

教育長

部活動の在り方については、これまでは一つの競技に 3 年間打ち込んでという考え方もあったが、子供の人間性の発達を考えると、地域の行事にも参加しながらいろいろなスポーツも経験して成長していくというもの一つだと思うので、いろんな在り方を考えていきたい。

会長

部活動の細かな取組については、学校ができたところで工夫してもらおう。大まかな方針、方向性というものを答申に入れていただくことは可能である。

教育委員会事務局長

例えば、多様な活動ができるようにとか、季節に応じてや、現行の中学生に限らず参加できるようにという感じでよろしいか。

委員⑩

P T A で学校審議会の話をしたが、該当する保護者は、統合後のことが気になっている。答申内容にも、まちづくりの構想みたいなものを入れていくべきなのかと思う。どこを中心にまちづくりを目指すという構想をもっているのか、その中で学校をどこに考えているのかというような具体的な方針を町民は期待しているのではないか。

副町長

まちづくりの構想については、町としてこの後しっかりと考えていくものかと思う。どこに学校が建つのかということも多くの方が気にされているようなので、例えば答申として出来るだけ早くその場所を決めてほしいというような文書を加えることで皆さんのご意見を取り入れられるのではないかと思った。

会長

個人的な意見だが、自然が豊かというところや地域との繋がりという点

について、例えば町民同士の繋がりが深まるようなという文言を答申に盛り込めたらよいのではないかと思う。

答申にある「義務教育学校の制度を活かし、上市らしい魅力ある教育に取り組んでもらいたい」という文言だが、特に義務教育学校の制度を活かすというのは、柔軟な教育課程、特色ある教育課程を組めるということなので「豊かな自然を活かして編成し」というような文言を盛り込んでみてはどうか。

(4) 連絡事項

- ・今後の審議会日程について

(5) 閉会

以上